

府省名	経済産業省	部局名	関東経済産業局
取組者	全体プロデュース：総務課 小澤 元樹、濱口 慎吾、中村 文明 外 業務棚卸し：政策評価広報課 横川 博司 外 クリーンアップ大作戦：総務課 和田 宗介、寺林 哲、福島 美樹 政策評価広報課 鈴木 脩斗 会計課 石田 友紀、山本 真生 外		

取組のポイント

関東経済産業局では、地域経済の活性化や健全な発展に向けて、組織理念の策定、地域に寄り添った支援策の検討、人材育成などの組織改革・強化に取り組んできた。こうした中で、コロナ禍で新たに顕在化した課題の解決に向けて、①個業化の打破（業務の総点検・業務体制の整備）、②仕事のやり方プチ改革、勉強会の実施（自己研鑽）、③ペーパーレス化の推進について集中的に取り組むことで、働き方改革（仕事の進め方の見直し）を推進した。

取組概要

【取組の背景】

関東経済産業局は、地域経済の活性化や健全な発展に向けて、「信頼される組織」、「存在価値のある組織」、「活力あふれる組織」を目指すべく、組織改革を実行しているが、コロナ禍において①業務の停滞や情報漏えい事案が発生、②日々の業務に加えてコロナ対策関連業務などにより残業が常態化、③テレワーク等の新たな働き方への対応ができていないといった課題を解決するため、働き方改革を行った。

【取組の内容】

○個業化の打破（業務の総点検・業務体制の整備）

各部署の業務の棚卸しを行い、一人で業務を抱えないような業務体制を整備し、幹部を中心に定期的なモニタリングを実施する体制を構築した。

○仕事のやり方プチ改革、勉強会の実施（自己研鑽）

「この夏、一日30分早く帰ろう！」キャンペーンとして、①業務依頼や幹部説明時間のコアタイム化、②会議資料等の事前送付を徹底、③その日やらなければならないことの特典等を行った。また、空いた時間で、自己研鑽を図るべく、業務や政策に関する勉強会「KANTOなつ勉」を企画・実施した。

○ペーパーレス化の推進

「クリーンアップ大作戦」として、ペーパーレスを前提とした仕事への変革を目指し、不要な紙文書等の廃棄や共有ドライブの容量削減、将来的なフリーアドレス化も視野に入れて執務室内の整理整頓を強力に推進した。

【取組の成果】

一人で業務を抱えないようチェック体制を構築するとともに、テレワーク時においても、ビジネスチャット、オンライン会議などを促進することで、課室内コミュニケーションが活性化した。また、超過勤務は前年同期比（8～9月）で17%削減するとともに、勉強会は20回開催、延べ1275人の職員が参加した。さらに、「クリーンアップ大作戦」により、段ボール273箱分の書類廃棄、共有ドライブ計219GBの削減を実現するなど、執務環境の改善、ペーパーレス化、電子ファイルの整理等が進んだ。

<h4>1. 働き方改革に向けて</h4> <p>経緯・背景</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における出勤抑制・テレワークの急増により、テレワークを前提とした仕事のやり方や新しい働き方に対応した執務環境の整備が求められている。 また、地域や企業の抱える課題が多様化し、様々なニーズに応じた柔軟な発想による政策検討の重要性が高まっていると。 さらには、職員一人ひとりのライフスタイルやプライベートの状況も多様化し、それに応じた働く環境の整備が必要となっている。 <p>関東局の働き方改革の基本的考え</p> <ul style="list-style-type: none"> 関東局では、職員一人ひとりが働き、組織力を結集し、よりよい政策を実現していく、そのために、乗り越えるべき課題に果敢に挑戦する「活力ある組織」であり続けることを目指す。 そのために、職員それぞれが、プライベートや家庭の時間を大切にしながら、仕事に情熱を注ぎ成果を出すための多様な働き方を奨励する。 コロナ禍を通じて顕在化した課題への対応・加速した新しい働き方に応じた環境整備を図る。 	<h4>2. 働き方改革の取組</h4> <ul style="list-style-type: none"> 組織理念として定めた「活力あふれる組織」の実現に向けて、当局の中期政策目標において「オフィス・アフターコロナ時代の多様な働き方の推進」を掲げ、働き方改革を積極的に推進。 <p>関東局の働き方改革の取組（6本柱）</p> <ol style="list-style-type: none"> 【コロナ禍に対応した働き方導入】 特急出勤の実施、テレワークの推進、局内外でWeb会議の積極活用。 【個業化脱却に向けた取組】 チームアップチャレンジとして課室長中心にマネジメント方針作成。各部署の次長による定期的な業務モニタリングの実施。等 【ペーパーレス化の徹底】 幹部説明の紙資料持ち込み禁止・事前資料共有の徹底、クリーンアップ大作戦により紙・フォルダの整理徹底、業務依頼を受けた際のオンライン会議室の積極活用。等 【業務効率化の強力推進】 業務棚卸しによる根幹業務の削減、執行業務の効率化に向けたBPRの実施・RPA導入。等 【ワークライフバランスの実践／自己研鑽の奨励】 一日30分早く帰ろう！キャンペーンの展開、KANTOなつ勉・自主的な推進。等 【オフィス改革による職員モチベーションの向上】 新しい働き方に対応したオフィス改革を通じて、職員にとって働きやすい環境の実現。 	<h4>3. 働き方改革推進強化月間の取組</h4> <p>今回の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 未年の働き方改革推進強化月間（令和3年7月1日～10月31日）では、コロナ禍で顕在化した①個業化の打破、②通勤の常態化、③テレワーク等の新しい働き方への対応など3つの新たな課題を解決すべく、この夏に集中的に取り組んだ。 <p>この夏、集中的に実施した取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ①個業化脱却のための取組 <ul style="list-style-type: none"> 業務の棚卸しや標準化している業務がないかを徹底検証。 その上で、各部署において、標準化脱却に向けた業務ラインの整理、コミュニケーション円滑化、チームワーク向上のための取組を実施。 ②ワークライフバランスも自己研鑽 <ul style="list-style-type: none"> 「一日30分早く帰ろう！」キャンペーンの展開、仕事のやり方の変更から一日30分節約することを差別的に啓発、超過勤務削減を推進（テレワーク推進を含む）、特に20時以降の勤務の削減を特に推進。 7月～9月までの間に、休取取得日（休日）と定時退勤日が含まれて10日以上となるように促進。 局内の英知を結集して職員が自己研鑽するための勉強会企画を推進し集中実施。 ③ペーパーレス化の推進、クリーンアップ大作戦 <ul style="list-style-type: none"> 仕事のやり方改革、執務環境の改善などを目的し、ペーパーレス化を促進するためのキャンペーンを展開。（参画）KANTOチャレンジ大賞の募集 本取組への職員のモチベーションの向上を図る観点から(1)～(3)のチャレンジした取組を表彰。
---	--	---

講 評

組織理念の策定、地域に寄り添った支援策の検討、人材育成などの組織改革・強化に取り組んでいるのは、ワークライフバランスの目的である多様な人材の活躍に資する考え方である。集中的に3つの取組を進めたことにより、高い効果実感が得られたと考えられ、風土改革効果は高いと思われる。